

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	07_福島県
市区町村名	07303国見町
自治体区分	都道府県

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
07303国見町	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	長期休み学習会や質問のできる学習室in柏葉、また少年仲間づくり教室において、活動支援に欠かせない存在である大学生ボランティアの確保を継続して行うこと。	ボランティア説明会ではスマホを活用し、QRコードから参加申込ができるように体制を整え、学生側の負担を軽減する。また、各月ごとに事業の周知を行い、国見町の学生ボランティアに興味関心を持ってもらう。	過年度から継続して参加する学生ボランティアも多く、人材育成に寄与している。また、学生ボランティアの募集を通年で行っているため、年度途中から新たに参加してくれる学生もいた。	各活動での児童生徒への支援体制が整うよう十分な人員を確保し、学生ボランティアの参加を確保	大学生ボランティアの登録数	25	人	30	36	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。	学生ボランティアを多く確保できたため、各活動にて十分な人員を確保し、児童生徒への支援体制を整えることができた。 http://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/kangetsudai/22452.html
07303国見町	③学校と家庭の課題	01 家庭等における学習習慣の定着	学校以外で学習を行う習慣がない児童生徒が増えており、学校の授業以外で学習を行うことに対する指導等が学校・家庭の共通の課題となっている。	小学生対象の長期休み学習会を継続して行うとともに、中学生対象の質問のできる学習室の実施期間や回数を見直し、高校入試対策講座を通年を通して実施することにより継続的な学習支援を行う。	小学生対象の長期休み学習会は、参加した児童のアンケートから「もっと日数を増やしてほしい」という要望もあり意欲的な姿勢が見える。中学生対象の質問のできる学習室では、学校行事等により参加者数の増減はあるものの、中間テスト前の自学の場として、また中学3年生は受験対策としての活用がみられた。	質問のできる学習室への参加者数の増加	質問のできる学習室への参加者数（現状の数値は1日の参加者数の平均値）	4	人	6	3	01 本年度の目標値を大きく下回り、取組の根本的な見直しが必要と求められる。	本年度の数値が下回った要因として、令和6年度に単発事業として実施していた高校入試対策講座を本年度より通年とし、同じ場所を実施場所としていたため質問のできる学習室の実施日が減ったことが影響したと考えられる。次年度は質問のできる学習室の事業自体を見直したい。 http://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/kangetsudai/22452.html
07303国見町	③学校と家庭の課題	02 放課後等における多様な体験活動	地域の子どもが放課後や週末に様々な体験・交流活動をする機会や場が減っている。 また、学校や家庭以外の大人と交流する機会が減少していることで、かつて地域から学んでいたマナーや常識などを学ぶ機会が少なくなっている。	地域の方や社会福祉協議会、寿クラブなど地域の団体に協力を仰ぎ、体験活動に参加してもらうことで、交流の機会を創出する。	コロナ禍等で活動を制限していた「もちつき体験」を寿クラブなど地域の団体の協力の下実施したことで、子どもたちが世代間交流や正月文化に触れる機会を創出した。	地域の大人との交流の機会を創出し、交流活動の意義を広く周知・定着させる。	「おじいちゃんとおばあちゃんと遊ぶことが楽しい」「地域の人との交流活動は必要だと思う」と感じる児童・保護者の割合（国見町教育委員会のアンケート調査）	100	%	100	96	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫が求められる。	目標値を下回ったが、令和6年度より参加児童が増えた中で高水準の実績値は維持できたため、大きな成果を得られていると考えられる。 http://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/kangetsudai/22452.html